

「パレスチナ医療視察」報告 (上)

—パレスチナの医療の実態—

猫塚 義夫

「北海道パレスチナ医療奉仕団」代表
医療九条の会・北海道幹事長



長いパレスチナの歴史の中で、今日ほど凄惨な歴史が刻まれようとしていることはありません。

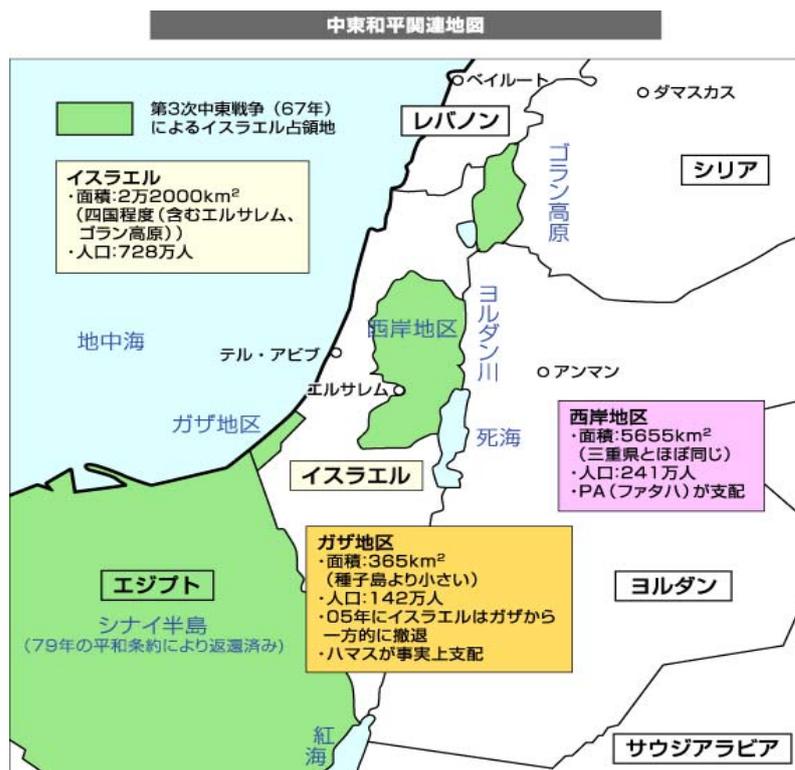
1948年、パレスチナの地における「イスラエルの建国」以来、この地に暮らしていた多くのパレスチナ住民は強制的に追い出され、今日も「難民」として、苦難の生活を強いられています。

さらに、2008年12月から開始されたイスラエルによるガザ地区攻撃は、無防備の一般市民も無差別に殺傷するともので、思想・信条の違いを超えて人道主義の立場から許されるものではありませんでした。

そうした中で、ガザ地区を含めたパレスチナの医療状態は、瀕死の状態になっています。とくに、経済封鎖が続くガザ地区では、停電による医療機器の作動停止や器具の使い廻しなど、およそ私たちに想像できない悲惨な状況です。また、両親の死亡により生み出される大量の難民孤児に対する支援は、特別の配慮が必要であると考えています。

こうしたパレスチナの生活と医療の実態に対して、北海道からも可能な限りの支援行動を行いたく思い、「パレスチナ医療奉仕団」を結成したのは、2010年10月でした。

第5回総会記念講演会（3月5日）での報告に加筆していただきました。2回に分けて掲載します。



「奉仕団」の目的は、

- ① パレスチナで、生存に関わる困難な医療状況を具体的に支援する。
- ② 「中東・パレスチナ問題」を現在の視点で啓蒙・普及を図る。
- ③ 中東から日本を見つめ、ボランティア活動を通して社会の底力を蓄える。ことであります。

今回、「奉仕団」が第1回「パレスチナ医療視察団」を派遣しましたので、その経過を報告いたします。報告は、2回に分けて行い、第1回は「パレスチナ医療の実態」、第2回目は「イスラエル占領下のパレスチナ住民の実態と今後の課題」としたいと思います。皆様方のパレスチナ問題に対する理解の一助になれば幸いです。

パレスチナの自立を助ける支援

私たちが考えた支援対象は、差別と貧困に苦しんでいる地域の住民であります。またその医療支援の具体的内容は、人的支援（医師・看護師・リハビリ・ロジスティクスなど）・現物支援（薬、医療機器など）・財政的支援（募金活動）・生産的支援（現地での事業活動）などでありました。しかし、そのなかでもっとも大切なことは、単に「もの」による支援ではなく、あくまでもパレスチナの自立を助けるものであり、彼らを主体にするというものなのです。

こうした意思統一をしながら、パレスチナ人であるアハマド氏（札幌在住）の講義によるパレスチナの歴史と今日の中東問題の学習をおこなったうえで「視察団」を出発させました。

今回の「視察団」の目的は

- 1) パレスチナの医療・生活実態の把握、
- 2) 「占領地」での市民の日常生活（占領地・難民キャンプでの生活）、
- 3) 医療供給体制と医療の現実（病院、診療所訪問と支援内容を確認）、
- 4) 障害者と難民孤児の生活と医療状況の把握でした。

メンバーは、団長：猫塚義夫 副団長：宮島豊 事務局：白山晴雄 記録：清水幸恵 会計：大野由佳で構成されました。

（写真1 中央がアハマド氏）

1月25日、札幌を発ちトルコ・イスタンブール経由でヨルダン・アンマンにつきました。2年前に、ジャーナリストの西谷文和氏らとともにイラク難民キャンプを視察したときにもアンマンを起点にしたのと同じ行程でした。

ご存じのようにパレスチナは、イスラエルの軍事支配下にあります。ヨルダンとイスラエルとの国境となるヨルダン川にかかるアレンビー橋での入国手続きの難しさは事前に聞かされていました。

実際、入国審査では、イスラエル軍(IDF)による検閲も行われておりました。さらに不気味なのは、高校生程度の若者が自動小銃をぶら下げて入国を待つ我々とパレスチナ人の周りをうろうろすることでした。



こうした行為が公然と容認されて、政・軍・民が一体となってパレスチナ人への差別と弾圧を加えている事を入国早々実感させられることになりました。

医療機関の視察

エルサレムをベースとして視察した医療機関は、ジェリコでは、ジェリコニュー ホスピタルとアクバドジャベル難民キャンプ ヘルスセンター。ナブルスでは、聖ロカ病院、ラフィデア病院（外科医療センター）とアスカル難民キャンプ診療所。ヘブロンでは、チャリティー病院、労働クリニックとムハンマド・アリ病院視察病院。そして、ビリン村クリニックでした。

世界最古の都市と言われるジェリコでは、アクバドジャベル難民キャンプにあるヘルスセンタークリニックが印象的でした（写真2）。国連の管理下にあるクリニックは、乏しい予算の中で十分な医療が難しく、しかし医師達の努力で、高血圧、糖尿病などの慢性疾患や肥満対策に力を入れていました。

特にパレスチナでの「肥満対策」は重要で、アラブ世界における砂糖とオリーブ油の過剰消費によるものであることが指摘されていました。

（基本的にアルコールは摂取しませんが）

また、パレスチナのどの医療機関でも妊娠・出産に力を注ぎ、特に助産師さんの活躍を感じました。特に、2008年にアラブ世界で初めて作成したパレスチナの「母子手帳」は、日本の母子衛生の成果を取り入れたものです。

ヘブロンのラフィデア病院は、外科医療センターとして大学付属の教育病院としての役割も持つ病院で、活気に満ちた医療従事者の姿がありました。

私たちも手術室や分娩・新生児室、熱傷センター、建設中のリハビリ施設など詳細に視察することができました（写真3）。

パレスチナの医育教育の水準は発展途上で、専門医教育は欧州諸国へでかけ、資格を取得してくるのが実情でした。



また、ヘブロンチャリティクリニックでは、腰部椎間板ヘルニアの患者さんの診察を通して院長の Haitham 医師と様々な意見を交換することができました(写真4)。

軍事占領による医療機能の不全

こうしたことを通して、私たちが考えたことは、

- 1) 医薬品や医療物資が十分ではないこと
- 2) 長い軍事占領下での社会心理的医療面での支援が必要なこと
- 3) リハビリテーションや再建外科分野での発展が望まれていること、
- 4) 生活・労働環境と日々の暮らしへの支援が求められていること、
- 5) そして、何よりもイスラエルによる軍事占領の終結とパレスチナ内部対立の克服が重要であるということでした。

一方、パレスチナの医療供給体制は、自治区では基本的に公的に「保障」されていますが、150万人とも言われる「難民キャンプ」に暮らさざるを得ない人々には、低水準の医療しか提供されていないのが実情です。

さらに、自治区においてもイスラエルにより設置された分離壁と検問所(写真5)は、パレスチナ住民のみならず救急車の移動の自由を制限し、救急・重症患者や妊婦の救急が手遅れになるあこともまれではありませんでした。特に、妊婦の救急移送への制限が年間2500件あるとの事実には驚かせられました。

医療制度を確立してもイスラエルによる軍事占領により機能不全の状態に追いやられているのが、パレスチナ医療の現状であることが痛感させられました。

今回は、いよいよイスラエルによる軍事占領下にあるパレスチナ社会の実態と、日本国憲法との関係、その国際的意義にも言及して報告いたします。



慢性疾患の管理、肥満対策のポスター(チャリティクリニック)



写真5

(追記)

この場を借りて、ご支援いただいている皆様に深謝いたします。

現在、私たちは「奉仕団」の会員募集を行っています。「奉仕団」の趣旨に賛同していただき、メールアドレスやファックス番号をお知らせいただければ幸いです。会費は不要で「奉仕団」は皆様からのご意見と募金で運営しようと考えています。

「北海道パレスチナ医療奉仕団」

Palestinian Medical Service of Hokkaido in JAPAN (PaIMSH JAPAN)

代表：猫塚義夫 副代表：宮島 豊

事務局：白山晴雄 会計：大野由香 監査：清水幸恵、

アドバイザー：松元保昭・大友正幸（聖公会）

Tel&Fax:011-780-2730 Mobile:090-8274-3163 E-Mail : hokkaido.palestine@gmail.com



<08年 イスラエル軍は救急隊員を狙い撃ちして虐殺した>

医療九条の会・北海道 第5回総会への提案

1) 総会の目的

- ①第4回総会以降の活動を総括し、今年度の方針を立てること
- ②役員選出を図ること

2) 情勢

- ①外交問題・改憲策動（尖閣諸島、北朝鮮砲撃事件）と9条に基づく平和外交
沖縄・普天間問題と日米安保体制～日米韓合同安保体制
朝鮮半島有事、対中国への軍事的対応と平和外交
武器輸出三原則緩和から非核三原則見直し路線と非核平和国家日本
- ②議員定数削減～完全小選挙区制と「大連合」「救国内閣」構想～「憲法改定内閣」
- ③雇用と「貧困」問題の深刻化
- ④医療・介護・社会保障課題の新自由主義的改悪とTPP参加問題

3) 第4回総会以降の取り組み

講演会

2月13日（土）第4回総会

ノーマ・フィールド氏講演

3月16日（火）加藤周一ドキュ

メンタリー映画「しかし それだけではない」試写会

4月10日（土）「核（原子力）と

人類は共存できるか」講演会

小出裕章・斉藤武一さん講演

実行委員会主催

5月09日（日）映画「しかし

それだけではない」上映会

5月22日（土）福住9条の会講

演会（猫塚幹事長講演）

5月29日（土）湯浅誠講演会

（グリーン9条の会・たかさき

法律事務所9条の会との共催）

6月26日（土）NPT報告会（反

核医師の会と共催 川島・逸見

医師報告）

6月 日本軍慰安婦パネル展

8月17日（土）第10回憲法セ

ミナー「アフガンレポート」



西谷文和さん講演

9月18日(土) 結成4周年記念講演会「むのたけじ・堤未果札幌講演会」

10月30日(土) 美唄「方波見講演会」(安田慶秀共同代表)

憲法リレートーク

5月3日 堀元進先生

声明発表

「改憲手続き法の施行にあたって、同法の廃止を求める」(6月1日)

黒川一郎共同代表名

4) 他団体との協力

5) 会報の発行 (3回)

6) 2011年度の予定

①講演会

4月23日「井上ひさし没後1周年記念早乙女勝元講演会」(実行委員会参加)

5月3日『憲法集会』:

憲法記念日リレートーク(大通公園 西4丁目)

第5回結成記念講演

5月21日(土)「中村哲札幌講演会」 18:30~

会場:エルプラザホール(300名) 会費1000円(前売 800円)

益川敏英講演会

未定 グリーン9条の会と共催

「9条の会 北海道交流会」:他団体と協議を尽くして

2011年秋頃に運動の高揚を作り出す中で開催を想定

②『憲法セミナー』開催の継続

「憲法九条の原点に立ち返って」(仮題) 薄井正道先生(共同代表)

「沖縄からの報告」(仮題) 伊集唯行先生(沖縄医療生協理事長 北大医学部卒)

「沖縄・普天間問題」 「憲法と小沢路線」「原発問題」「TPP問題」

「医療問題と憲法25条」 「北海道での強制連行の歴史」

「子どもの貧困」など……。

「9.11」10周年行動・共催

③「会員」による講演活動

④5.3 憲法記念日 街頭リレー演説会

⑤各「9条の会」・諸団体との連携

・・・世界平和アピール7人委員会、北大9条の会、セイブイラクチルドレン札幌、
反核医師の会、グリーン9条の会、地域9条の会、各種実行委員会への参加

⑥各種「声明」の発表、送付とマスコミ対策

沖縄「普天間基地移設問題」;堀元先生

記者会見と情報提供

- ⑦会員拡大：紹介リーフの作成（「篠路・太平9条の会」リーフを参考に）
- ⑧「共同代表・幹事」合同会議の定期開催
- ⑨定期刊行物「会報」の発行と充実：会報への投稿者の拡大
- ⑩HPとMLの活用
- ⑪その他

7) 『会』の強化と会員拡大についての討議

- ①「会員」一人ひとりの力の発揮と企画の充実：紹介リーフ作成（別記）
- ②各職種・職場・地域での「会」の立ち上げと援助、会員の拡大
看護師・検査関係・リハビリ・MSW・医系学生
『菊水カフェ』開催
「道北医療九条の会」（準備会）結成
若手会員獲得の取り組みの具体化
- ③会員数 最高時 420 人 現在 359 名
- ④財政問題・・・未納会員への系統的な働きかけの強化

8) 役員体制

- 新幹事推薦：出井 聡さん（ソーシャルワーカー 西円山病院）
玉井三枝子さん（看護師 勤医協丘珠在宅総合センター）
退任幹事：江原美智子さん（前勤医協札幌看護専門学校副校長）

以 上



第1回「菊水カフェ」小森陽一さんを囲んで（2010年5月4日）

< 2011年度 役員 >

共同代表	黒川 一郎	札幌医大名誉教授
	安田 慶秀	北大名誉教授
	三上 一成	三上整形外科医院院長
	薄井 正道	羊ヶ丘病院長
	中井 秀紀	前北海道民医連会長
	菅野 保	菅野歯科医院院長
	能條多恵子	前富良野看護専門学校長
	落合 裕昭	元北海道作業療法士会副会長
	越田 靖夫	元北海道臨床検査技師会副会長

幹事	猫塚 義夫	勤医協札幌病院《幹事長》
	松崎 道幸	深川市立病院
	平野 哲夫	市立札幌病院
	堀元 進	旭町医院
	大方 直樹	勤医協中央病院
	牧田憲太郎	牧田病院
	遠藤 高弘	勤労者歯科医療協会理事長
	永田 康	市立美唄病院
	久村 正也	札幌心身医療研究所
	吉澤 朝弘	勤医協西区病院
	梅木 晃彦	勤医協中央病院検査部 検査技師
	出井 聡	西円山病院 ソーシャルワーカー
	玉井三枝子	勤医協丘珠在宅総合センター 看護師

事務局 札幌市北区北14西3 1-12
TEL (011) 758-4585 FAX (011) 716-3927
Mail 9jyo@dominiren.gr.jp
HP <http://iryoy9jyo.dosanko.org>

結成5周年を迎えました

2006年7月22日、加藤周一さんをお迎えして結成講演会を開催してから、5年が経過しようとしています。さまざまな情勢の変化の下、活動を続けてきたことを記念して、下記の事業を行います。どうぞご参加下さい。

中村哲さん「命の水を求めて」講演会

ペシャワール会代表として、長くアフガニスタンの地で人道支援にとりくんでおられる中村哲医師をお招きする講演会です。一昨年は現地の豪雨によって講演会直前に来日かなわず、福元満治さん（ペシャワール会事務局長）に代理講演をしていただきました。今回はそうしたご縁もあり、優先的に日程を確保していただいていたの講演となります。

待ちに待った講演会です。どうぞお誘い合わせの上、ご来場下さい。

5月21日（土）18：30開会

札幌エルプラザホール（札幌市北区北8西3）

前売券 800円 当日券 1000円

高校生以下と障害のある方は無料です

★前売券は、札幌市内プレイガイドでも扱っています。

また、事務局までご一報いただければ取り置き可能です（当日会場で引き替えます）

5周年記録集の発行

5年を振り返ってみるとともに、今後への期待を会員みなさんから寄せいただいて、1冊にまとめたいと考えています（非売品）。

5周年記念講演会でお披露目できるよう準備中です。

会員みなさんからの投稿を募集いたします。

テーマ 「医療九条の会・北海道への期待」「九条への思い」

400字程度で、5月10日を目安に、事務局までお送りください。

どうぞ奮ってご応募下さい。